

平成27年2月24日
紋別・巡視船そらち

巡視船そらち元気に海氷派遣中！

巡視船そらちが定係地としている紋別港はオホーツク海に面しており、砕氷能力を持たない本船は、毎年1月から3月にかけて海氷が接岸するのに合わせ、他部署を基地としたしょう戒任務やドックでの定期修理を行うため紋別を離れた生活を送ることになります。紋別への帰港は、海氷がオホーツク海沿岸から離れる3月中旬頃になります。

長い派遣生活では、精神的なストレスだけでなく洗濯物も溜まってきます。船内で洗濯が許可されるのは入港日の直前や停泊中になりますが、洗濯機や乾燥機の絶対数が少ないため、後部の事務室兼乾燥室には、いつも所狭しと洗濯物が干されています。

そろそろ異動の話もあり、引越し準備は紋別に戻ってからということになりますので、海氷が紋別沖から去る時期が遅くなるほど、引越しの準備が短くなり、戻ってからが大忙しです。

紋別に残された家族にとっては、「亭主元気で留守がいい」とは言いますが、今年は台風並の爆弾低気圧がオホーツク地方に何度も襲来し、除雪ひとつとっても男手なく、大変な苦勞をしているのだらうと思いつつ、最近双子が生まれたS乗組員に話を聞いてみると、「実家に避難しているから大丈夫」ということでした。

まだまだ派遣生活は続きますが、冬去り春来たる紋別への帰港を心待ちにしつつ、巡視船そらち乗組員は今日も元気に派遣生活を送っています。

